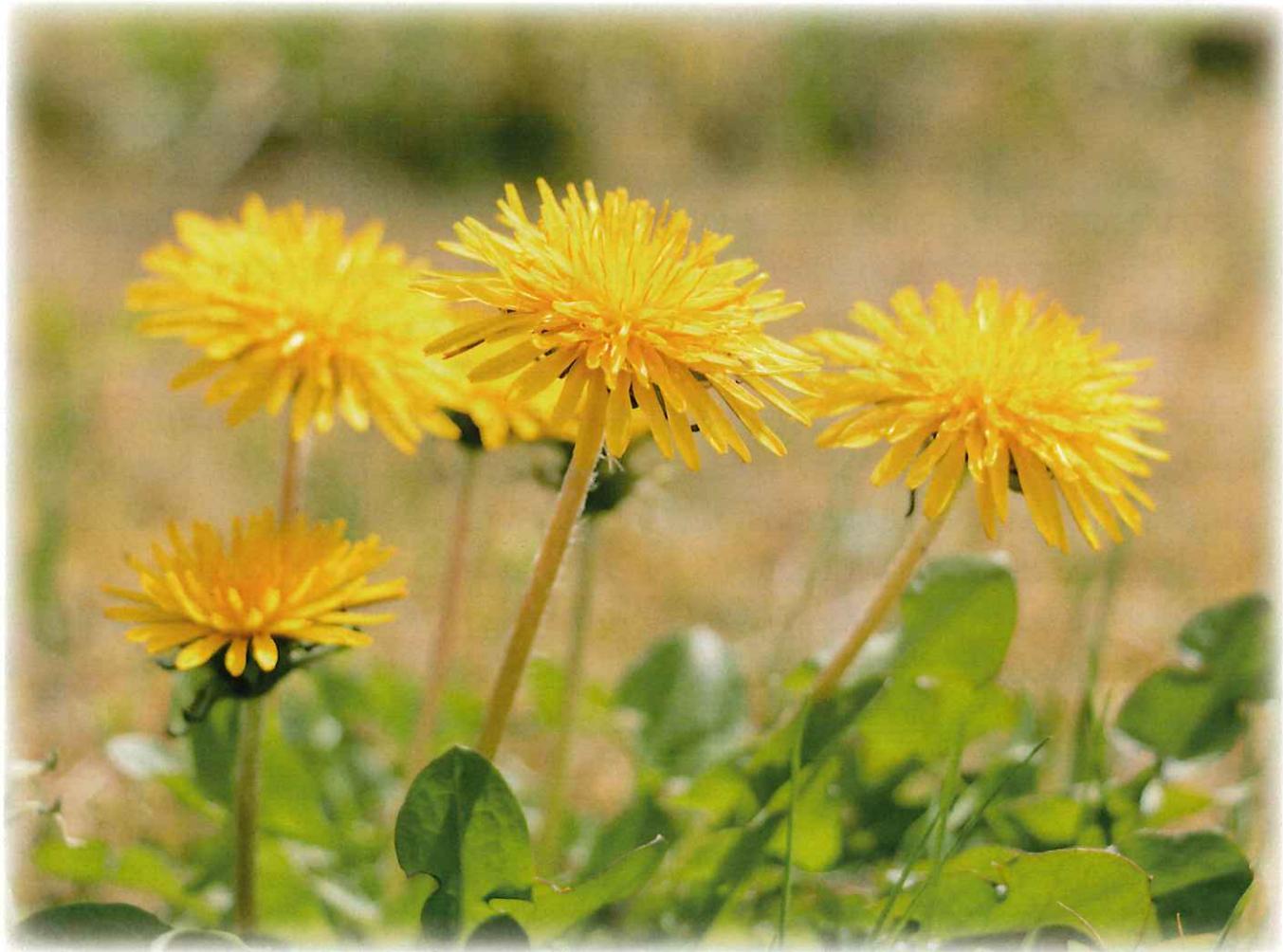


令和5年度
春号

広報誌 熱気球

■ 発行 佐賀中部病院 佐賀市兵庫南3-8-1 TEL 0952-28-5311



病院の理念

基本理念

1. 患者さん中心の医療を行い、質の高い安全な医療を提供します。
2. 皆様が安心して暮らせ、心の支えとなる病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんを中心としたチーム医療を行います。
2. 地域へ良質な保健（健診センター）・医療・福祉（老健施設、在宅ケア）の提供を行います。
3. 地域医療機関と密接に連携した医療を行います。

院長就任のご挨拶



院長 園畠 素樹

2023年4月にJCHO佐賀中部病院院長を拝命した園畠です。大学院を含めると20年以上の大学勤務を経て昨年副院長として着任したばかりであり、大任に身が引き締まる思いです。

昨今の医療・福祉を取り巻く環境は、病院運営をするにあたり、決して楽観できるものではありません。また、3年間のコロナ禍を経て、アフターコロナの状況についても黄霧四塞といった状況です。数ある独立行政法人の中で、JCHOグループは独立採算をいう厳しいミッションを課されています。そのため、JCHOグループ57病院の職員給与は均一ではありません。当院の給与水準の具体的な内容については差し控えさせていただきますが、今まで以上の経営努力が必要になることは間違いないと考えています。ただし、超過勤務、過重労働は厳禁です。医療の効率化・仕事の効率化のためにこれまでの仕事内容を徹底的に見直す必要があると思います。また、よりレベルの高い医療の提供のための自己研鑽を行うことも大切です。一般企業では、従業員満足度と顧客満足度を両立することが大きな命題となっています。医療機関においても従業員満足度と患者様の満足度を両立することは重要な問題です。

JCHOは、厚生労働省管轄の独立行政法人であり様々な法令や規則に縛られている部分があります。良い点としては、順法精神が守られ患者様、職員を守るという意識が非常に高く保たれています。しかしながら、欠点を挙げるとすれば、スピード感にやや欠ける点です。民間病院と比較して手続きが煩雑な面があることは否めませんが、この点は前述したように業務の見直しを通じて克服できると信じています。

前任の浅見院長が築き上げたJCHO佐賀中部病院ブランドを引き継ぎつつ、新たな挑戦もしていきたいと考えています。3年間のコロナ禍は、我が国における有事であったと思います。その中で私が感じた問題の一つは、三次救急の疲弊です。佐賀中部医療圏には、佐賀大学、好生館の二つの三次救急医療機関がります。コロナ禍の中で、この二つの医療機関で三次救急の受け入れがひっ迫する状況がしばしばありました。三次救急病院の機能不全は決して起こしてはならない事態です。そのためには、一次・二次救急の下支えを充実させることが必須だと考えています。一次・二次救急を充実させることは、地域医療機能推進機構のメンバーである当院の責務であるとも言えます。当院の医療資源では三次救急を行うことは現状では不可能ですが、三次救急であるか否かを判断するトリアージは可能だと思います。長年大学に勤務して、三次救急を受ける立場にいた私としては一次・二次救急の充実は三次救急を疲弊させないための重要な問題だと考えますので、今後は大学病院、好生館と今まで以上に連携を行いながら救急医療にも力を入れていきたいと思います。

より良い医療の提供のために邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひいたします。至らぬ点も多々あると思いますので、忌憚のないご意見を賜りたく思いますので、重ねてお願ひいたします。

退任のご挨拶



名譽院長 浅見 昭彦

この原稿を書いている3月初旬はまだ寒くなったり暖かくなったりの、いわゆる三寒四温の時期ですが、これが皆様のもとに届くころにはもうすっかり春になっていること思います。

さて、私はこの3月31日をもって長らくお世話になったJCHO佐賀中部病院を退官退職いたします。昔を思い出しながら振り返ってみたいと思います。この病院との関わり合いは1996年に遡ります。1年1か月の間でしたが、前身の社会保険佐賀病院の整形外科医長と佐賀社会保険病院の整形外科部長として勤務いたしました。その後しばらくは佐賀医科大学（現在の佐賀大学）整形外科で講師、助教授を務めた後、2005年に佐賀社会保険病院の副院長として復帰いたしました。2012年にちょっとした院長選の結果院長となりましたが（自分的には山崎豊子の白い巨塔の世界です）、当時はそれに関連して医師や職員の大幅な異動・退職が重なり経営的には大変苦労をいたしました。それから2014年に組織が大きく様変わりしてJCHO佐賀中部病院となったのをきっかけに産科・小児科を廃止し、将来を見据えて看護体制をそれまでの7:1から10:1へと変更、さらに病床の一部を亜急性期病床としました。2016年からは5階病棟を地域包括ケア病棟へ転換し、ようやく経営も黒字に転換することができました。2017年には老健を超強化型として在宅復帰・在宅支援機能が高いリハビリテーションを提供する機能維持・改善の役割を担えるように改革し、2020年には新型コロナ感染症に対応するため発熱外来を設置、2021年には新型コロナ感染症患者の入院確保のために地域包括ケア病棟をコロナ病棟へと転換いたしました。整形外科的には1994年の開設以来、常勤医は2~3名で手術症例も年間200~250例で推移していたものが、私が赴任してからは常勤も5~6名となり手術症例も飛躍的に伸びて2018年にはこれまでの最高の1000例を超え、現在も高い水準で維持できています。これもひとえに佐賀大学整形外科教室からの医師派遣と近隣の先生方からのご紹介の賜物であります。私が院長に就任した当時は経営的にも大変苦しく、またいろいろなことで誹謗中傷もあり、疑心暗鬼に陥って周りが全部敵に見えていた時期もありました。現在はあからさまに敵意をむき出しにする人もおらず健全に過ごすことができていますが、私が苦労したことを次の世代には経験させたくないという一心で後継者を選びました。院長は園畠素樹先生、副院長は外科の岡洋右先生と呼吸器内科の内田賢先生です。園畠先生も私と同じ整形外科医で手外科医（他に股関節・痛みに関する専門）であり、同門で非常に優秀な先生でありますので同じ路線で中部病院を引っ張っていってくれるものと確信しております。岡先生、内田先生方には副院長として院長の補佐を、また病院の益々の発展のためにご尽力いただきたいと願っております。私は4月からは地域の医師として貢献してまいりますが、JCHO佐賀中部病院には何かにつけてお世話になると思いますのでこれからもうぞよろしくお願ひ申し上げます。長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。

副院長就任のご挨拶



副院長 岡 洋右

浅見昭彦先生と清松和光先生の定年退職に伴い、令和5年4月から院長園畠素樹先生のもと、内科の内田賢先生と共に副院長を拝命いたしました外科の岡洋右と申します。

平成8年に久留米大学を卒業してから3年前に初めて地元佐賀での勤務の機会を得ることが出来ました。3年間は近隣の先生方とも満足にご挨拶も出来ないまま過ごしてしまいましたが、昨年赴任された園畠先生はコロナ渦など微塵も感じさせない積極的な行動力で、リーダーシップを発揮されておられます。前任の清松先生は27年間の勤務経験と細やかな気遣いで厚い人望を得ておられました。

私が今出来る事は限られていますが、今まで以上に患者様や近隣の病院から選ばれる病院になるには何をすべきか考えながら、園畠先生や内田先生と共に近隣病院をはじめすべてのコメディカルスタッフとコミュニケーションを密にして日々奔走したいと思います。少しでも多くの皆様に受け入れてもらえる様がんばりますので、どうかよろしくお願ひ致します。



副院長 内田 賢

春爛漫の季節を迎え、皆様におかれましてはますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。このたび、4月1日付で副院長に着任いたしました。

私は1998年佐賀医科大学医学部を卒業後、呼吸器内科へ入局しました。近隣の病院勤務を経て大学院へ進み、佐賀大学医学部医学系研究科博士課程分子生命科学講座分子医化学分野を卒業後、2013年より2年間Mayo clinic (米国) へ留学しました。2015年帰国後よりJCHO佐賀中部病院へ入職し9年目になります。

今回副院長に着任するにあたり、私は以下の3つを大切にしたいと考えています。地域医療に貢献する病院であること、財政的に自立した病院経営であること、職員一人ひとりが医療人として高い意識を持つことです。当院は一般急性期と亜急性期を担うべき立ち位置にあり、2次医療の充実、3次医療機関での高度急性期医療を終えた患者さんの受け入れを積極的に行います。また地域の一般開業医との連携を深め、これまで以上に紹介、逆紹介を推進します。さらに急性期病棟、地域包括ケア病棟、介護老人保健施設、今年新設いたしました訪問看護ステーションを活用し、JCHOが目指す「地域完結型」の医療を推進することにより地域医療に貢献したいと考えます。そして、私の最終的な目標である「地域から愛される病院になる」ことを目指して頑張っていきたいと考えております。皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

事務長就任のご挨拶



事務長 國重顕

このたび、令和5年4月1日付で、島田事務長の後任としてJCHO徳山中央病院（山口県周南市）から異動により事務長に着任いたしました國重と申します。

出身は山口県ですが、実際勤務したのはこの1年のみで、これまで前団体の厚生団から数えますと、東京、愛知、福岡、熊本、山口そして佐賀県と異動してまいりました。

もちろん佐賀での生活は初めてですが、プライベートでは「嬉野・武雄温泉」「吉野ヶ里遺跡」「有田陶器市」「三重津海軍所跡」などなど幾度か訪れましたので、これからは佐賀県民としてゆっくりたっぷり観光地を堪能し、そして新たな発見ができるることを楽しみにしております。

さて、平成26年4月にJCHOが発足し9年が経過しました。「地域の住民、行政、関係機関と連携し、地域医療の改革を進め、安心して暮らせる地域づくりに貢献します」とJCHOの理念にはあります。

当院もこれまで近隣の開業医との連携を図りつつ、附属の健康管理センター、介護老人保健施設の機能を活かして地域医療の一部を担ってきております。

また、今年の2月からは訪問看護ステーションを開設し、地域において必要とされる医療及び介護を提供する機能を強化しております。

これまでの歩みを止めること無く、地域の皆さまが安心して医療や介護を受けられるよう、また、職員にとっても明るく働き甲斐のある職場を築くため、お役に立てるよう努めて参りますので、これからどうぞよろしくお願ひいたします。

副院長退任のご挨拶



前副院長 清松和光

私事ですが今年3月で佐賀中部病院を定年退職することとなりました。

大学の医局人事にて九州医療センターから佐賀社会保険病院に平成8年9月に赴任して以来26年7か月、このように長期に渡り勤務することになるとは夢にも思っておりませんでした。

佐賀の土地が初めてだった私を、当時の外科部長であった石橋先生が“飲みにケーション”を最大限活用し、久留米大学同門の多くの先生方と顔見世させていただき、佐賀に馴染むきっかけとなったこと石橋先生には感謝の言葉しかございません。石橋先生が辞職されるにあたり、後任で済生会二日市病院の副院長をされていた廣瀬先生が、医局からの説得で私のために外科部長として赴任されて来られたことには非常に驚きました。赴任後は、腹腔鏡下手術等をご指導していただき外科医として成長させていただいたことに深く感謝しております。しかし不慮の事故で病院を去られることとなり、遺憾にたえないでおりましたところ、ベッドサイドで「外科はおまえに任せた」との言葉をいただいたことは大変有り難く、この言葉が糧となり、今日まで頑張れたことはひとえに先生のおかげだと感謝しております。

平成18年には副院長を拝命、外科医1名増員で4人態勢を整えてくれた医局に感謝しかなく、また不甲斐ない管理者にも関わらず、私についてきてくれた職員の皆様方には深く感謝しております。

また、佐賀市医師会や久留米大学同門及び同窓の先生方には、麻酔科問題で一時期ご迷惑をおかけしてしまい、大変心苦しく思っておりました。しかし、その後も普段と変わらぬご支援をたまわり感謝の言葉しかございません。今後の外科は、岡外科部長（4月から副院長に就任）を筆頭に新体制となりますが、今まで以上のご指導をよろしくお願い申し上げます。

本来ならば直接お伺いしてお礼を述べるべきですが、鎮静化してきたとはいえたまだコロナ感染が遷延している状況でかなわず、失礼ながら書面にてご挨拶申しあげます。

佐賀中部病院附属訪問看護ステーション開設のご挨拶

管理者 飯盛 英美子

この度、令和5年2月より新規指定訪問看護ステーションとして佐賀中部病院附属訪問看護ステーションを開設することができました。

事業所は附属介護老人保健施設内の一室、居宅介護支援事業所・訪問リハビリテーションと同室に構えさせて頂きました。スタッフは私を含め看護師3



名でのスタート、訪問看護の経験がなく不安もありましたが、同室で在宅を担う諸先輩方の姿を見て、相談しながら日々の経験を積み始めています。皆看護に対する熱い思いがあり、時間があればご利用者様のことを話し合い、和気あいあいとした事業所だと思っています。

私が目指すものは、「住み慣れた自宅で過ごしたい」「好きなように過ごしたい」とお思いの方々を支え、ご利用者様に寄り添った在宅看護、おせっかいだけど嬉しいと思って頂けるような関係性を築き上げたいと考えています。そのためには、訪問看護師として安全・安心を提供できるよう精進し、多様なニーズにお応えできるよう努力して参ります。そして、地域に根差した良質の在宅看護を最大限に発揮できるよう実践していきたいと思います。

また、当事業所の特色の1つとして、私が皮膚・排泄ケア認定看護師であるということです。これまでの病院勤務の中で専門的に活動し、経験を積んで参りました。褥瘡や創傷ケア、ストーマケア、フットケアなどに対し、専門的知識・技術を持ってケアを提供できます。例えば、褥瘡のある利用者様であれば、発生した要因を考え、褥瘡を治すため、再発予防のための最良のケアを実践し、地域でお困りの方々からのご相談に対応していきたいと考えています。

地域の皆様から必要とされる事業所へ成長していくことをを目指し、多くの皆様のご期待に応えられるよう頑張ってまいります。皆様、何卒よろしくお願ひ致します。

健康だより

受けてみませんか？オプション検査

腫瘍マーカー：血液で腫瘍の存在などを知る指標となる検査です。

(但し、良性の疾患や炎症などの影響で数値が高くなったり、がんであっても数値が高くならない場合があり、あくまでも一つの補助的な検査です。)

検査項目	検査によってわかる指標	がん以外でも数値が上がる要因
①C E A	：大腸がん・肺がん等	：加齢、喫煙等
②A F P	：肝がん等	：肝硬変、急性・慢性肝炎等
③C A 19-9	：すい臓がん・胆管がん等	：胆石症、糖尿病、急性・慢性膵炎等
④P I V K A - II	：肝がん等	：胆汁うつ帯せい疾患等
⑤S C C	：肺扁平上皮がん・子宮頸部がん等	：上気道疾患、透析患者等
⑥D U P A N-2	：すい臓がん・胆のう、胆管がん等	：肝硬変、急性・慢性膵炎等
⑦エラスターゼ1	：すい臓がん等	：急性・慢性膵炎等

上記7つの検査をセット1～3の組み合わせでオプション検査として受診することが可能です。

セット1	①+②+③	4,400円
セット2	①+②+③+④+⑤	7,700円
セット3	①+②+③+④+⑤+⑥+⑦	9,900円

また、上記のセットのほか、男性は前立腺がん、女性は卵巣がんなどの検査や、肺がんや胃がんなどの検査も行っております。

検査項目	検査によってわかる指標	がん以外でも数値が上がる要因	
P S A	：前立腺がん等	：前立腺肥大等	1,980円
C A 125	：卵巣がん等	：子宮内膜症、肝硬変等	1,980円
C Y F R A	：肺がん・胃がん等	：肺炎、肺結核等	1,980円

そのほか、心不全マーカー（B N P）があり、これは心臓のポンプ機能を知る検査となっています。

今回紹介したオプション検査は、全て血液検査で実施されますので、受診いただく健診コースに追加いただいても、健診時間が大幅に変わることはございません。他のオプション検査についても、ホームページに記載しておりますので、一度ご覧ください。また、気になることがございましたら、下記までご連絡ください。

独立行政法人地域医療機能推進機構

佐賀中部病院 健康管理センター

☎ 0952-37-0580 (直通)

